

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	建築景観研究に関する情報発信事業
事業主体 (連絡先)	株式会社まちづくり木曾福島 木曾郡木曾町福島 5084 番地
事業区分	3. 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,690,544 円 (うち支援金: 1,352,000 円)

事業内容

- 1 調査研究活動＝平成28年度より信州大学と当社の協働により実施してきた崖家づくりに関する調査研究の最終段階として、追加調査等を行ない、まとめて繋げた。
- 2 小冊子と映像の製作＝平成28年度より信州大学と当社の協働により実施してきた崖家づくりに関する調査研究の成果を、地元住民向けに小冊子(700部発行)および映像にまとめて発表した。
- 3 「崖家づくりシンポジウム」の開催＝調査研究成果の発表と、有識者・住民との意見交換を行い、住民が崖家づくりについて考える機会を設けた。約90名が参加。



【崖家シンポジウムの様子】

【目標・ねらい】

- ①学生や外部有識者の声を活かし、崖家づくりに対する地元住民の意識醸成を図る。
- ②地域で初めて、崖家づくりに関する研究誌を製作する。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①学生や外部有識者の声を活かし、シンポジウム(約90名参加)の開催や映像の製作を行なった。シンポジウムでは住民の関心を高めると共に、崖家づくりの活用策等について探り、崖家づくりに対する地元住民の意識醸成につながった。
- ②木曾で初めて、崖家づくりの歴史や実態についてまとめた研究誌を製作した。700部発行。
- ③行政および住民の間で、空き家となっている崖家物件を活用しようという動きが出てきた。木曾福島地域協議会と連携し、同協議会広報紙「自治きそふくしま」に崖家づくりに関する座談会が掲載された。

※自己評価【A】

【理由】

地元の事情や大人の事情で学生を振り回すことのないように注意して推進したことにより、事業内容に若者の素直な感性を活かすことができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

本事業の実施により、地元住民の間で「(株)まちづくり木曾福島は崖家づくりに詳しい、力を入れている」という印象が生まれており、今後当社に、崖家づくりに関する情報や相談が寄せられる可能性が考えられる。行政の出資によって設立された当社の立場で可能な限り、個々の事例に対し適切なアドバイスを行ったり、行政ほか諸団体と連携するなどして、崖家づくりのある建築景観の活用法を探っていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある